

営農ウィークリーNEWS

梅雨時に発生しやすい、灰色かび病に注意！

発生条件

- ・低温条件（20℃前後）は発生に好適である。
- ・湿度90%以上で多発する。
- ・多灌水は、発生を助長する。
- ・伝染源の放置は、発生を著しく助長する。

防除法

- ・密植を避ける。
- ・圃場に不要な花卉、果実、茎、葉は伝染源となるので処分する。
- ・マルチをして、土壌からの湿気を防ぐ。
- ・予防に重点をおき薬剤散布をする。

「農作物病害虫診断ガイドブック」より

ナスの被害



※湿気で花落ちが悪く、そこから感染し、かさぶた状になったもの。

灰色かび病はトマトやナス、キュウリのなど野菜や多数の花卉類、果樹類に発生します。

トマトの被害



※水滴のたまりやすい肩部に発生しやすい。



※葉の病斑。褐色の大型円形病斑が生じる。
(写真：京都乙訓農業改良普及センター)

主な農薬（ ）内はRACコード

ダコニール1000 (M5)、ダイアメリット DF (M7、19)、ファンタジスタ顆粒水和剤 (11)、カンタスドライフロアブル (7)、アフェットフロアブル (7)、スミブレンド水和剤 (2、10)、ポリオキシシンAL水溶剤 (19)、トップジンM水和剤 (1)、ベンレート水和剤 (1)、アミスター20フロアブル (11)、パレード20フロアブル (7) など

農薬の使用前には、ラベル等で登録内容をしっかり確認してから、ご使用下さい。

TAC information

知っていますか？

「RACコード」



RACコードとは、世界的な農薬製造会社の国際団体が定めた農薬の分類コードの事で、同じ作用性の農薬グループを一つにまとめて、それぞれの農薬にコード番号を付けています。

殺虫剤は「IRAC」、殺菌剤は「FRAC」、除草剤は「HRAC」といいます。

農薬による耐性・抵抗性は、同一農薬、同一系統の薬剤の連用がその発生要因であると考えられています。RACコードを参考にして、同じ系統の農薬の連用を避けてください。

※RACコードは、農薬工業会のHP等でも確認することができます。

ボトルに記載されたRACコード

RACコードは、製品ラベルや、チラシなどに表示されています。
※すべての農薬製品にRACコードが掲載されているわけではありません。

汎用性のある殺菌剤(登録内容を確認して使用する)

汎用性のある殺菌剤					
品名	ダコニール1000フロアブル	トップジンM水和剤(ベンレート水和剤)	アミスター20フロアブル	カスミンボルドー、スターナ	Zボルドーなど
FRACコード	M5	1	11	カスミンボルドー(24、M1)、スターナ(31)	M1
成分系統	有機塩素系	チオファネートメチル(ベンゾイミダゾール系)、ベンミル	アゾキシストロビン(ストロビルリン系)	銅+抗生物質、その他	銅剤
適用病害虫	べと病、疫病、灰色かび病、うどんこ病、炭疽病、すすかび病、葉かび病、つる枯病、さび病、苗木枯病、小菌核腐敗病など。	灰色かび病、葉かび病、菌核病、うどんこ病、炭疽病、つる枯病、黒星病、すす枯病、ビッグベイン病、小菌核腐敗病など。	灰色かび病、葉かび病、菌核病、うどんこ病、べと病、炭疽病、つる枯病、さび病、白さび病、黒斑病、すす枯病、ビッグベイン病など。	軟腐病、かいよう病、斑点細菌病	斑点細菌病、褐斑細菌病、黒斑細菌病、黒腐病、軟腐病べと病
倍率	1000倍(500~2000倍)	1000~3000倍(500~6000倍)	1500~3000倍	1000倍	400~1000倍
農薬の特性	胞子の発芽阻止と、菌糸の侵入阻止効果が強い。浸透移行性はない。耐性菌が発現しにくい。 ハウレンソウには登録がない。	浸透性がある。耐性菌が出やすいので連用は避ける。	浸透性がある。さび病等には卓効を示す。高温時の機能性展着剤との混用は薬害発生の恐れがあるので注意する。	細菌病専用防除剤	浸透性はない。銅イオンが植物の表面を覆い、病原菌の酵素作用を阻害し、殺菌効果を現す。野菜類で登録あり。

病気と殺菌剤

1 病気発生には必ず3つの要因が必要

病気の発生には、①「病原(主因;病原菌そのもの)」、②「植物(素因;罹病性品種、窒素過多・日照不足などで軟弱生育)」、③「環境(誘因;温度、湿度、風通し)」の3要因が重なり作用し合うことが必要。

2 診断のポイント(病気か生理障害か)

病気の場合は、一部から徐々に広がる場合が多い。圃場全体に均一に発生している場合は施肥関係、薬害、光化学、気象要因などが考えられる。

3 初期防除が重要

普段からよく観察を行い、作物の変化・異常を見逃さない。早ければ早いほど被害も軽微で終わる。

4 予防的薬剤、治療的薬剤と言われるが

一般的に予防効果とは表面に付着している病原菌を殺菌すること(保護殺菌剤)。治療効果とは成分が作物体内に浸透し、侵入初期の病原菌を殺菌すること(浸透性殺菌剤)。治療的薬剤は病気が広がってから散布するという意味ではない。あくまで、初期防除に徹する。

5 一部を除き連続して同じ農薬を散布しない

連用はせず、薬剤系統区分(作用機構分類コードFRAC)の異なる剤を選んで散布する。